

(別添 1)

【 安堵町 】

端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	349	353			
② 予備機を含む 整備上限台数	401	406			
③ 整備台数 (予備機除く)	0	353			
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	353			
⑤ 累積更新率	0%	100%			
⑥ 予備機整備台数	0	53			
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	53			
⑧ 予備機整備率	0%	10%			

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

使用期限が 5 年に達する 7 年度中に更新予定。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数： 4 1 0 台 ※令和 2 年度購入分

○処分方法

- ・使用済み端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用： 1 0 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託： 4 0 0 台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託： 0 台
- ・その他 ()： 0 台

○端末データの消去方法 ※いずれかに○をつける。

・自治体の職員が行う。

◎処分業者へ委託する。

○スケジュール (予定)

令和 7 年 7 月 処分業者の選定

令和 7 年 9 月 新規購入端末の使用開始

令和 7 年 1 1 月 使用済み端末の事業者への引き渡し

○ その他特記事項

処分計画については、処分条件により変更の可能性あり。

(別添2)

【 安堵町 】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合

[0 %]

令和7年度予測児童生徒数は、小学校226名 中学校27名 合計353名
であり相当する推奨帯域は437～350Mbps

1Gbpsエフォート型の契約であるため、実質通信速度は、これを下回ることが
想定される。現時点で、通信速度に支障はないが、今後アセスメントをもとに
適切な通信速度に改善する必要がある。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和7年9月までに課題のある学校について課題の特定を完了させる。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

アセスメントの結果を踏まえ、令和8年4月から順次改善策の検討を開始し、
令和8年9月までに対象校における改善策を完了する。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、すでに解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

令和6年度は、アセスメント実施の予算化ができていないため、令和7年度に
アセスメントの予算化を行い、上記のスケジュールでネットワーク速度の確保に
努める。

(別添3)

【 安堵町 】

校 務 D X 計 画

近年、社会全体におけるデジタル化の進展を受け、教育現場においてもDXの推進が求められている。教育委員会や学校が教育DXを推進することで、児童生徒の学習環境の改善、教職員の働き方改革、教育行政の効率化などが期待できる。

本計画の策定にあたり、先の「GIGAスクール構想下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検の結果を踏まえ、以下の点に留意した。

1. 現場のニーズを踏まえた現実的な施策
2. 段階的な推進と関係者への丁寧な説明
3. セキュリティ対策の徹底
4. 持続可能な取り組み

以下に 本町の教育委員会や学校における教育DX推進を具体的な施策とともに示す。

1. 不必要な押印・署名の廃止
 - 電子署名・電子捺印の導入
 - ペーパーレス化推進のための文書管理システムの導入
 - 押印・署名が必要な手続きの見直し
2. ペーパーレス化
 - 校務書類の電子化
 - 教科書・教材のデジタル化
 - 保護者との連絡手段のデジタル化
3. 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化
 - 学習管理システムの積極的活用
 - オンラインコミュニケーションツールの積極的活用
4. クラウドサービスを活用した学校や教職員へのお知らせや一斉配信
 - クラウドメールの導入
 - クラウドストレージの活用
 - 情報共有プラットフォームの構築
5. 教育委員会と学校間の情報共有化
 - データ連携基盤の構築
 - 情報共有に関するルール・マニュアルの作成
6. その他
 - デジタルリテラシー教育の充実
 - 教職員向けの研修の実施
 - セキュリティ対策の強化
 - 予算の確保

教育DXを推進にあたっては、関係者全体で取り組むことが重要であることから、学校の教職員の意見も踏まえ、行政部局のDX推進担当者と連携を図りながら、推進したい。

(別添4)

【 安堵町 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

主体的・深い・個別最適化・多様な・生涯にわたる学びの実現のためには、①生徒一人ひとりが主体的な学び ②思考力・判断力・表現力などを育成 ③個々の理解度に合わせた指導 ④場所や時間にとらわれない学びの場の提供 そして、⑤生涯学び続ける資質・能力を育成が求められる。それらを実現する有効な手段としてにICT環境に期待するところは大きい。そのためにもICT環境整備とともに機器の効果的な活用方法の検討、教員の指導力向上、情報格差の解消にも努めなければならない。

2. GIGA第1期の総括

本県においては、全国平均を上回る整備率を達成し、学校における児童生徒のICT活用は大いに進んだ。また、教員のスキルも向上し、教育現場に大きな変革をもたらした。しかしながら、教員のスキルに個人差があることも事実であり、単に端末を使用するだけでは、構想の趣旨である個別最適・協働的な学びの充実と学びの保障を実現することはできない。

また、校務におけるペーパーレス化、教員児童生徒間の連絡等のデジタル化、クラウドサービスを活用した情報共有については課題を残しており、校務の効率化、働き方改革の十分な推進には至っていない。

3. 1人1台端末の利活用方策

1. 個別最適化の保障

- ① 個別指導・学習支援：個々の児童生徒の理解度や学習進度に合わせた個別指導や学習支援オンライン教材やアダプティブラーニングシステムなどを活用
- ② 学習履歴の分析・可視化：学習分析ツールなどを活用して、個々の強みや弱みを把握し、それに応じた指導計画の作成。
- ③ 多様な学習スタイルへの対応：音声教材や動画教材、ゲーム教材などを活用して、個々の学習スタイルやニーズに合わせた、多様な学習方法を提供

2. 協働的な学びの保障

- ① グループワーク：オンラインホワイトボードやグループチャットなどのツールを活用して、グループワークを活性化。
- ② ディスカッション：オンラインディスカッションツールを活用した活発な意見交換を行い、協調性やコミュニケーション能力を育む。
- ③ プロジェクト学習：オンラインプラットフォームを活用してチームで協力して課題解決に取り組むことで主体性や問題解決能力を育む。

個別最適化と協働的な学びの保障を両立するために児童生徒の主体性を尊重できるよう教員の指導力の向上も求められる。また、情報格差の解消のための環境整備や安全にこれらを活用するためのセキュリティ対策も必須である。